

## 欧米の幼児教育 ⑧

# カナダの幼児教育

西 本 脩

### 施設の種類

カナダで幼児教育を行なっている施設は、保育園 (day nursery) と保育学校 (nursery school) と幼稚園 (kindergarten) の三種類であり、どれも、おもに大都市の中心部に見いだされます。

保育園と保育学校は二歳から五歳までの幼児を、幼稚園は五歳から六歳までの幼児を対象として考えられています。二歳から六歳までの幼児を入れる私立の教育施設がいくつかあり、それらの施設は保育幼稚園 (nursery-kindergarten) と名付けられていることもあります。

### 組織・財政・管理

保育園はオンタリオ州とマニトバ州の二つの州に見られ、個人・教会と宗派・地方の地域社会・福祉事業団・公当局など、いろ

いろな援助のもとに運営されています。おもに個人営利事業として経営されている保育学校と保育幼稚園は、ほとんどすべての州に見られます。

一〇州のうち七州に見られる公立幼稚園は、おおかた州の教育局 (department of education) の認可を得て、都市の学務委員会 (school boards) が設置します。この場合、公立幼稚園は学校系統の欠くことができないたいせつな要素として取り扱われています。つまり、他の公立学校と同じ補助金の交付を受け、同じ規則の規制を受けています。そして、学務当局の正規の監督のもとにあります。学務当局には、ふつう初等教育の指導主事がいて、幼稚園と義務教育 (小学校) の三年生までを監督する責任を負っています。



## いろいろな特色

幼児教育は義務教育ではなく、随意です。たいていの場合、幼稚園にはいる前の一二月三一日までに幼児が満四歳になっていなければならぬと、規則にははっきり書いてあります。学年はじめは九月ですから、幼稚園にはいる最低年齢は、満四歳八か月です。オンタリオ州には、四歳児のための年少児幼稚園 (Junior Kindergarten) が少しあります。前にもしるしたように、保育園と保育学校の場合は、入園を許される最低年齢は二歳です。

公立幼稚園以外の幼児教育施設は、ふつうある種の料金を請求します。その金額は施設によって非常に異なりさまざまです。保育園はふつう、親の支払い能力をもとにして料金を徴収しますが、この施設は地方の福祉資金から補助金を交付されているので、その料金はさほど高くはありません。教会・宗派・あるいは福祉事業団が経営しているいくつかの幼児教育施設では、料金を徴収しません。設備がよく整ったある種の私立の施設では、高い料金を徴収するかもしれません。

一クラス当たりの幼児の人数を限る規定は何もありません。

## 教育活動と方法

オンタリオ州・サスカチュワン州・ブリティッシュコロンビア州の教育局は、幼稚園の教育計画を示す「幼稚園便覧」を出してお

り、ケベック州では、カトリック委員会の規則がカトリック幼稚園に対する指令を含めています。

これらの公式の教育計画はすべて、幼児の知的・道徳的・社会的・情緒的・身体的発達を助長することの必要性を強調していません。霊的発達 (spiritual development) も、宗教と教育が密接にタイアップしている学校系統での一つの目標として、加えられています。学科は正式には教えられていません。幼稚園教育の目的は、学校教育における進歩をたやすくするようないろいろな経験を、幼児に与えることです。したがって、お話を聞くこと・絵を見ること・経験を話すこと・自然環境を探ることは、すべて正式の読書教育計画にはいったときに子どもを助けます。

私立の幼児教育施設はそれぞれ、主として教員の訓練と経験によって決められる独特な教育計画に従います。保育園は幼児教育の分野の当局と密接な接触を保ち、その保育計画は、幼児教育における最良の思想と実践をもち込んでいます。幼児は保育園で一日中過ごすので、幼児の健康や栄養にも、その教育と同様に、多くの注意が払われます。

幼児教育の責任を負っているたいの公当局は、幼稚園の保育学校に必要な、屋内・屋外の教材の目録を発表しています。けれども、これに関連する規定は何もなく、教材の量と種類は施設

によってさまざまです。最大の一致は、公立学校の系統の幼稚園で得られます。そこでは、専門家の助言が受け入れられ、たいいての推薦教材を備えるのに十分な金があります。

### 教える言語

カナダの教育施設で教える言語は、英語かフランス語かのどちらかです。わたしの知っている限りでは、幼児教育施設で第二の言語を教えることができるかどうかは、今まで大規模な研究や公式の実験のテーマではありませんでした。

幼児の段階にテレビでフランス語を教える実験が、一九五九年—一九六〇年の学校年度に始められ、引き続き行なわれていきます。この課程は、特に教育施設のために企てられたものではありませんが、ある幼稚園や小学校低学年で利用されています。

### 時間割

保育学校は半日かまたは全日か、どちらかの保育計画を持っています。幼児は九時ごろに來ます。保育園は一日に七時間か八時間、開いています。

### 研究の中心施設

幼児教育に関する研究は、四つのおもな中心施設で（オンタリオ州に二か所、ケベック州に二か所）、引き受けています。トロント大学の心理学部にある児童研究所は、大がかりな研究計画を

行ない、その研究結果は、研究所のモノグラフや紀要やそのほかの出版物に発表されています。なおその上に、研究所の所員はしばしば、幼児教育施設が設立されつつあるときに、助言を求められます。

オンタリオ州のもう一つの中心施設は、トロント教育大学です。ここでは、研究よりも教員の養成に重点が置かれておりません。

ケベック州には、ラバル大学の教育学部の幼児教育学科と、モントリオール大学の教育研究所があります。

### 経済生活・労働生活との関係

幼児教育施設の大都市中心部への集中化は、この施設がある程度社会的要求に応じて設立されていることを示しています。もともと託児所 (crèche) であった保育園は、長い社会福祉の歴史を持っています。それは、おもに貧困家庭や欠損家庭の要求を満たしました。一九三九年から一九四五年までの第二次世界大戦中は、軍隊にはいった男の人に代わるためか、または未亡人になつたためか、やむをえず働かなければならなくなった母親の子どものために、多くの保育園を開くことが必要でした。多くの保育園は、戦後閉じられましたが、いくつかは開かれたままでした。この施設は、育児教育の専門家はもちろん、医学および栄養の専門

家の奉仕も得て、一般に、健康・栄養・教育の高い水準を保ちました。保育園は都市の非常に人口が集中したところと、わりあい普通の社会人としての権利を与えられない経済的・社会的地位が低い住民の地域にだけ見いだされます。

私立の保育学校と幼稚園については、やはり大都市の中心部に集中されていますが、社会福祉的な目的よりもむしろ教育的・心理的な目的を持っています。

私立の保育学校や幼稚園に通う幼児は、平均あるいは平均以上の社会的・経済的地位の家庭から来ており、子どもが一日のうち何時間か、素質や傾向を発達させるような活動を幼児に与えられるような人に教育してもらうよう願っています。したがって、これらの施設の立場からいうと、栄養上の注意や医学的管理のおもな責任をとるのは家庭です。公立幼稚園は、あらゆる社会階級の子どもたちを対象として考えられています。似かよった目的を持っています。

#### 家庭との協力

家庭と幼児教育施設との間の協力は、ありふれた事がらです。先にあらまし述べたような要素のために、ときには保育園では幼稚園や保育学校よりも、この目的を達することがいっそうむずかしいようです。両親との接触はいろいろな方法で保たれていま

すが、その中で一般的なのは、まず第一に両親との定期的な面接触であり、それから両親との臨時の面接触です。これらより少ない接触の種類は、施設での親の観察・討論グループ・親のための講話などです。親に対する筆記による通信は、多くの公立幼稚園の特色になっています。

#### 安全と輸送

幼児の輸送は、幼児教育施設にとってそれほどたびたび起こる問題ではありません。多くの幼児教育施設は、幼児をすぐ近所から寄せ集めます。いくつかの私立の教育施設では、ふつう追加料金を取って、幼児を輸送する手はずを整えています(タクシーと契約をするとか、施設の職員が自分の車を使うとか)。交通規則はすべての園児を保護し、園児はしばしば街路をよこぎることができるように、特別なバトロールの奉仕を受けます。

#### 建物と設備

公立の幼稚園は、幼児の健康と保護に意を用いて設計された教室におさめられています。へやには、火事の場合に利用する出口(外側に開くドアがついている)と、十分な空間・明るさ・暖房がなければなりません。適当な大きさの便所と洗面器が手近に備えられています。

私立の幼稚園や保育学校の建物は、住宅の余分のへやから、特

別に設計された園(校)舎まで、いろいろなものがあります。したがって、幼児の保護・健康・安全のための施設は、事情によつてまちまちです。ある州では、この点について厚生局が定めた規則があります。

### 教員の養成

公立幼稚園の教師をするためには、ふつう、初等教育専門官の免許状かまたはこれと同等のものがが必要です。幼稚園と小学校の一・二・三年生を教えることができるこの免許状を取得するのは、一般に基礎教育免許状の課程がすんだあと、まる一年間の勉強をすることが必要です。この一年の勉強は、夏期講習会あるいはおりおり、夜学校の学課で行なわれるかもしれません。私立の教育施設についていうと、教職員の資格は非常にさまざまで、一般的にいうことはできません。

### 幼児教育の発展上の困難点

公立幼稚園の発展を妨げている最も大きな障害は、第二次世界大戦後の人口の急激な増加です。義務教育学齡児の場合でさえ、校舎と教員が足りず、しきりに求められています。実際、幼稚園クラスのために使うはずの小学校のスペースが、正規の小学生の教室として用いるために先に取られています。したがって、いくつかの学校系統では、幼稚園が前よりは少ししかありません。私

立の教育施設は、多くの費用がかかる財政上の冒険であり、親が快くこのような教育のために支払う金額は限られているので、急にはふえません。

けれども、幼児教育の発展を妨げている本当のおもな障害は、人々がまだ幼児教育を絶対必要なものであると考えないことにあります。たとえば、もし子どもの教育は五歳までに始めることが必要であると考えらるなら、いくつかの幼児教育施設が作られるでしょう。

(大阪緑蔭女子大学)

## 幼児の教育 第六十六巻 第七号

七月号 © 定価八〇円

昭和四十二年六月二十五日印刷  
昭和四十二年七月 一日発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内  
編集兼 津 守 真  
発行者

東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内  
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一  
印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一  
発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番  
◎本誌御購読についての御注文は発売所  
フレール館にお願いたします